

バイオマス発電所竣工式 真庭から地方創生の一步を



4月10日、官民出資の真庭バイオマス発電株式会社建設したバイオマス発電所の竣工式が行われました。この発電所の出力は1万キロワット（年間発電量は一般家庭約2万2千世帯の消費量に相当）で、未利用材を主燃料にした木質バイオマス発電所では国内最大級。式には国や県、市の関係者ら約100人が出席。今井敏林野庁長官、太田市長ら8人がテープカットをした後、同社の中島浩一郎社長がボイラーに火入れをし、発電所が稼働しました。



写真上：テープカットを行う来賓や関係者
写真左：ボイラーに火入れをする中島社長

4月2日、3回目となる真庭市まち・ひと・しごと創生本部会議が市役所本庁舎で行われました。部長級職員で構成されたこの本部は、人口減少に対応したまちづくりを考えていくもので、雇用創出や交流・定住、子育て・教育、都市づくりの部会をつくり、具体的な政策形成を行っていきます。今後、有識者からの意見聴取や市民会議との意見交換・提言を経て、9月をめどに総合戦略を策定します。

まち・ひと・しごと創生本部 真庭の未来を考える



本部員の部局長級職員の前であいさつをする市長



完成を祝うテープカットを行う関係者

市営CLT春日住宅完成見学会
CLT市営住宅が竣工
3月29日、昨年11月から着工していた、3階建ての「市営CLT春日住宅」が完成し、竣工式が行われました。式では太田市長や建築業者らがテープカットを行い住宅の完成を祝いました。式後、見学会が開かれ、近隣住民など約100人が参加。市の担当者から、「CLT断熱性や耐火性、防音性などに優れている」など説明を受けていました。CLTを主な構造材とした公営の3階建て住宅は日本全国で初めてです。

岡山県議会議員選挙

開票結果

4月12日に行われた、岡山県議会議員選挙（真庭市・真庭郡選挙区）の開票結果をお知らせします。

- 当日有権者数 39,869人
- 投票総数 22,924人
- 投票率 57.50%
- 候補者別得票数（獲得票数の順）
 - 河野慶治 12,785票（新庄村含む）
 - 浅野 実 10,530票（新庄村含む）

3/26 市営住宅の現状を見直すために

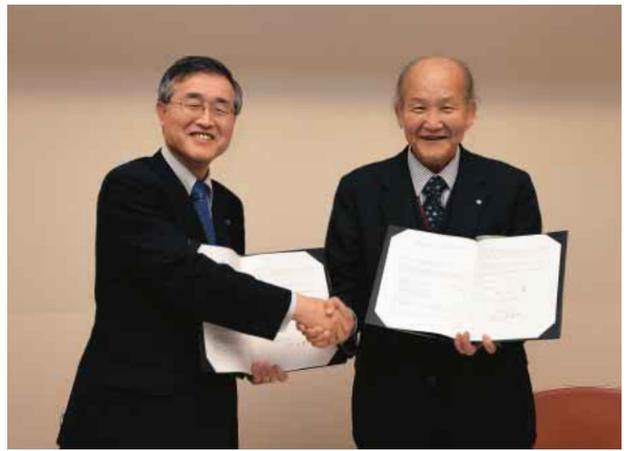
真庭市営住宅整備検討委員会から市営住宅の今後の方針について、若者に配慮した住宅整備などを市に答申しました。市営住宅の多くが耐用年数の30年を超過している現状を見直すため同委員会に諮問していました。



市長室から こんにちは!

地域と行政で支える高齢化社会

高齢化社会が到来する中で、平成12年に介護を社会化する画期的なものとして、介護保険制度が実施されました。しかし、この15年間で介護費用総額は3倍に増大し、当然ながら介護保険者である40歳以上の保険者負担額も増加しています。真庭市では65歳以上の月額保険料（基準額）が、平成26年度の4,540円から平成27年度には5,160円になり、心苦しい限りです。それでも県内全市町村では低い方から3番目（最高は7,800円）で、15ある市の中では最も低い額です。今後、介護サービスを維持しながら、負担をどうするか。妙案はなく、健康長寿を目指すことや、地域で支え合いできる限り在宅暮らしができる生活環境を整備することが大切でしょう。市民と真庭市の連携で、少ない個人負担で豊かな高齢化社会を築いていきたいものです。



協定締結後、握手を交わす市長と坂井東洋男学院長

追手門学院包括連携協定 県外の学校と初の協定

4月4日、学校法人追手門学院との連携協定に関する協定締結式が、休暇村蒜山高原で行われました。協定には、人的交流の促進、知的物的資源の相互活用、まちづくり事業の実施といった項目を盛り込んでいます。真庭市は追手門学院の研究、データを利用するほか、県外の若者に真庭の魅力をPRすることを想定。学院は真庭を学生のフィールドワークの場としていく予定で、具体的な取り組みは今後決定していきます。



式典には生徒・関係者約400人が出席

落合中学校新改築落成記念式典 新しい学び舎が完成

4月16日、落合中学校新改築落成記念式典が同中学校体育館で行われました。式典には生徒や関係者など約400人が出席し、太田市長が「友情を深めながら勉学や運動に励み、落合中学校の歴史に新たな1ページを刻んでほしい」とあいさつ。新しい中学校は、校舎や技術棟、屋内運動場に真庭産のスギやヒノキをふんだんに使用しています。新しい学び舎に生徒たちは「明るい」、「きれい」と喜んでいました。